

[2013]九州大学情報統括本部年報 : 2013年度

<https://doi.org/10.15017/1559839>

出版情報 : 九州大学情報統括本部年報. 2013, pp.1-, 2014. 九州大学情報統括本部
バージョン :
権利関係 :



第18章 ISMS運用事業

18.1 情報統括本部における ISMS の継続的な運用

(1) 平成 25 年度に計画した ISMS のイベントについて、次のように実施しました。

- (ア) リスクアセスメントの実施

リスクアセスメントの方法を見直し、新たな方法によりリスクアセスメントを行いました。

- (イ) リスク対応計画策定

リスクアセスメントの結果を受け、情報セキュリティリスク受容基準値を超えた情報資産に対し、関係事業室等でリスク対応計画を策定しました。マネジメントレビューでその計画が承認され、リスク対応計画に基づき予防処置を実施しました。

- (ウ) 内部監査員養成研修の実施

内部監査員養成研修を実施し、本研修参加者 12 名が新たに内部監査員有資格者として追加されました。

- (エ) 内部監査の実施

事業室等ごとに、内部監査員による監査を行い、監査報告書及び発見事項報告書（改善が必要な事項の報告）がまとめられました。発見事項報告書の解決策が実施され、フォローアップ監査を実施しました。

- (オ) 全体説明会の実施

ISMS 適用範囲構成員に対し、ISMS マニュアルを中心とした ISMS 関連文書の変更点について、11 月に 2 度の説明会を行いました。

- (カ) ISMS マニュアル等の見直し

ISMS マニュアル等について、実態と照らし合わせて実行可能なものとなるよう内容の見直しを実施しました。第一階層文書については、担当理事によるマネジメントレビューで承認を得ました。第二階層及び第三階層文書については、ISMS 管理責任者 (情報統括本部長) の承認を得ました。

(2) 課題の継続的な検討、改善

- (ア) 課題の進捗状況

第三者認証機関による継続審査、内部監査、マネジメントレビューでの指摘事項や課題について、継続して検討を行い、97 課題（平成 24 年度からの継続課題を含む。）のうち 70 課題の解決策を策定し実施しました。

(3) リスクアセスメントの方法見直し

リスクアセスメント方法の見直しを行いました。主に情報サービスの可用性を重視して、資産価値レベル算出方法の見直しを行いました。(情報サービスを単位とし、サービスの利用者数、データ件数、サービス間の連携の重要度を考慮して、情報資産の資産価値レベルを総合的に評価する方法。)

(4) 第三者認証機関による継続審査

平成 26 年 2 月に認証審査機関により継続審査が行われ、認証が継続することとなりました。

(5) ISMS 用グループウェアの運用

ISMS 適用範囲構成員に対し、ISMS 運用事業に係る情報共有を目的に、平成 25 年 4 月から ISMS 用グループウェアの運用を開始しました。また、他の事業室に対し、本グループウェアのファイル共有機能を提供しました。

18.2 九州大学内での ISMS の普及促進

1. ISMS 運用事業室 HP の英語版を作成しました。
2. 九州大学病院メディカルインフォメーションセンター職員を対象とした説明会を 10 月に実施し、ISMS の仕組み、内容等について、情報発信、情報提供を行いました。

18.3 その他

1. 他大学が開催している ISMS 研修会において講師を務め、本学の ISMS 認証取得までの経緯や今後の課題について事例を発表しました。